

0	関1-1「市民容易～」施策	関1-2「障害者(児)～」施策	関1-3「安心～」施策	関1-4「自分らしい～」施策	関1-5「身近～」施策	質問A 人材の確保	質問B 支援の届きにくい人
00001				障害があってもできることは多いと思う。 雇用主の理解と配慮でできる。		わが団体は障害が顕在化するのが50代以上と高齢のため、役員のなり手不足と高齢化が問題。	ヒアリングカウンセリングや定期的な集いで、話せる環境作り
00002	私たちのような腎臓病患者を増やさないよう啓発広報活動を強化し、腎疾患総合対策の推進を願う。私たちは、患者や家族及び病院関係者を含めた学習会を市の施設(主にラポールひらかた)を利用して、年に数回行っています。近年ラポールの老朽化?によるのか、資料しづらくなっております。施設の補修、点検を実施して欲しい。また、駐車場がなくなり、不便になりました。特に健常者が利用スペースがなく、相互交流がしづらくなりました。交流推進できる施設についてご検討願います。	透視患者は感染症に弱く、死亡率も高いです。コロナ等感染症に罹患した場合に、できるだけ通院入院を含めて、市内でできる様対策整備を望みます。 ・ワクチン接種を安価で定期継続できるようにして欲しい ・週3回通院が必要な私たちにとって、交通機関による通院支援をご検討願いたいです ・災害時における避難方法や透視の確保、病状に伴う食事等不安事項への対応を切に願います	「障害者医療費助成事業について現行の制度を継続」を願い守るため、〇〇を通して毎年1回国会請願、府議会請願、署名活動と枚方市への要望書提出活動を行っています。年々、医療費、自己負担が増加してきています。これ以上の負担が増えないことを切に願います。		私たちは毎年〇〇京阪ブロックで自治体要望を兼ねた活動をしておりますので、今後も情報提供等よろしく願いいたします。	会員の拡大及び病院に関する学習会を行う事により、意識改革と社会生活への参加を促している。交流し施設として利用している「ラポール枚方」の整備と駐車場確保。	
00003	コロナでマスク社会が定着してしまって、相手の表情や口元(話話)が見えず、声も聞き取りにくい。「筆談します」と表示されていても面倒がられる。ゆっくりはつきり話してもらえとわかりやすい。	スーパー、コンビニなどで聞こえにくい人のためにできることを啓発してほしい。 簡単な絵の表示やすぐに筆談など					
00004	昔より障害者への理解は進んでいます。が、まだまだ足りません。障害者の方が出かけやすい環境作りや配慮。何より居場所が少ないので居場所をもっと増えて欲しい。唯一の安心して行けるラポールが空調等で長く行けないのが困る。早急に整備して居場所を整えてほしい。	近いうちに起こると言われている南海トラフや近年の異常な気象。万が一でも避難所に行く選択肢がない。(無理)大きな声出したりすることもあり、今でも気兼ねしてラポール以外はなかなか行く気にならない。 そのラポールが過ごしにくい環境です。 この猛暑ではヘルパーと散歩もできず、人混みが苦手な人は行き場所がない。 ラポールの会議室1つを解放してプレイルームみたいなものが欲しい(居場所)	軽度の人は比較的選択肢ありますが、最重度の人は選択肢が全くない。 ニーズはあるのに、体制や受け入れが(細かい?)整っていません。最重度の人の方がサービス必要なのに。	最重度の人が参加しやすい余暇活動や障害の人に寄り添えるような社会参加や周りの理解への啓発など。	相談に行っても、一覧表を渡されるだけ もっときめ細かいサポートが欲しい。(施設側と交渉 間に入って入ってくれるなど)	障害の人たちを理解してもらったり、現状を知ってもらったり、物心つく前から障害の人たちが身近な環境を作ることが大事。(経験上)大人になってからでは固定観念あり難しい。あたり前(みんな違って)の教育。	やはり、地域レベルで他人に興味をもつことが大事。誰一人取り残されることのない環境は理想。
00005	〇〇を支援する家族会であり、直接当事者の働きには関与していない					事務所職員の維持、確保	
00006	地球の行事等にできるだけ参加しています。					福祉学科や美術系の大学生等、若い活気のあるボランティアを市が派遣して頂き、作業所内の活性化をはかるとともに新鮮なアイデア等の助言を頂きたいです。	
00007				既存のサービスを当てはめる(いやな表現ですが)、つなげる。選択するだけでなく、自由な発想を当事者の皆さんが持てるよう、支援する側も枠を取り払う必要があるように思います。支援者も、気楽に発想できるような自由さが欲しい。		大阪府の全身性ガイドの講習を実施しています。また、求人に応募してくださった方に向けて、よりその方のニーズや条件に合った求人の情報提供をすることはあります。 人材の確保よりさらに育成が課題です。 通常勤務のみでもキャバシティーオーバーで、学ぶ機会を作り出すことが非常に難しい。	当事業所だけのつながりだけでは支援が届かないことは明白です。いかに他の団体、自治会、関係機関とのつながりを持っているかがカギとなるように思います。そして、相談員自身が出かけて、顔の見える関係づくりを心がけることも必要と思います。 まず、依存症や引きこもりが何がか。実例を含めて、私達相談員が知ることができる場、機会が欲しい。外からは分かりづらい方々です。知らずして何をしたらよいかわか自覚がわからない。
00008	ひきこもりの方のお話をよく伺います。社会との接点が持てるように行政が働きかけてください。						

	図1-1「市民容易～」施策	図1-2「障害者(児)～」施策	図1-3「安心～」施策	図1-4「自分らしい～」施策	図1-5「身近～」施策	質問A 人材の確保	質問B 支援の届きにくい人
00009	元々1970年代からあった合理的配慮、やっど2006年の国連総会で採択が挙げられ、合理的配慮を拒否し受け入れないこと自体が障害を理由とした差別に当たると考えます。この合理的配慮されしかり受け入れられていれば、何の問題も起きていなかったはずと思っています。障害のある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮。筆談や読み上げる意思の疎通、車椅子での移動の手助け、学校公共施設等のバリアフリー化など、提供されるべきと考えます。	:医療的ケアの必要な高齢者や障害児者への対応 :枚方市災害医療対策議会の中で福祉専門家同士が協力して、福祉と防災の一体化 :2021年5月の改正災害対策基本法が施行され災害時の避難方法を事前に決める :個別避難計画の作成が市町村の努力義務となりましたが、枚方市として義務化 :避難所となるところの環境整備を災害時並べない人も、自治体や大きな施設の多くは、避難計画に「弱者への配慮」を盛り込み、具体的な手順を定めること :混乱時でも一人ひとりのニーズに応じた支援体制や配慮が必要である。障害者は避難所での生活は困難で、健康面での影響も大きく「他人に迷惑をかける」と自宅に引き返す声も多く、ルール作りが必要。開設場所など周知が不十分で気がつかない方が多い。	障害のニーズに合わせた配慮が必要である。教育の現場その子のレベルに合わせて、療育の必要な子には療育の充実、医療ケアの必要な子に医療ケアの充実を求めます。	卒業後の就労に向けた支援は大事なことで、一人ひとりの個性を生かした取り組みが必要である。	現在多種多様な考えがありまた、相談機関がどのくらいの資源を持ち各関係機関との連携による支援に繋がるのか、相談機関の強化	高齢化社会の中で、何処もが人材不足で悩んでいるところである。	自治体の中に、高齢者や障害者又、一人暮らしの方々が何処に住んでいるかの調査が必要に思われます。プライバシー保護の問題もありますが、命を守ることを考えれば、多少の犠牲を伴うことを覚悟しなければなりません。高齢者医療又障害者医療証を市が把握しているのであれば、アンケート調査ができるのでは。
00010	コロナで、できていませんが、作業所のお祭りに地域の方との交流を目指しています。	避難所での生活では難しいので、障害者用の施設を作って欲しい。	ヘルパーさんを増やしてほしい。	障害に理解のある職場を増やしてほしい。			
00011		障害があっても安心して子育てができること。 発達の保障を守るための環境を充実させてほしいと思います。	障害ニーズに応じた対応もしてほしいですが、福祉サービスの質の向上に期待します。専門的な知識を学ぶ機会を提供提供していただきたいと思います。相談支援事業の周知、利用しやすい環境も希望します。介護福祉におけるケアマネージャーのような方が、学校、事務所等のつなぎ役になれば親の負担も減るのでは?と思います。			私自身児童福祉の分野で働いていますが、子どもを預かっていただける時間内になります(知的障害が重度で一人でお留守番等は難しい。)。放課後等デイサービスの預かり時間が短くなっており、働きたい時間という声を時々聞きます。	地域の民生児童委員さんと連携しています。
00012						体移動、転倒のリスクが高い〇病なので、外出時のサポート(支援)を希望しているが、有償ボランティアならからうじて接点があるが、基本的に無償で支援してくれる人材が欲しい。希望する人材の確保は全く見通しがたっていない。	パーキンソン病の患者が利用できる制度がある事も知らない人が(本人の家族も)が多いので、会に入会している方には、勉強会をしたりサービス提供する側にコンタクトをとって、支援体制を整えてもらえないか。連絡する等。
00013	世の中が寛容さが減っています。益々生きづらくなります。	インクルーシブ教育の充実を。	働き場所も充実。				
00014							
00015	心の病の当事者会である当会が、今後も地域に根を張った活動を維持できるようにしっかりサポートしていただきたいです。	まだまだバリアフリーの整備が充分であるとは言えないです。	福祉サービスの利用に際して、現在、枚方市においては「計画相談」の利用が極めて困難な状況にあります。この状況を改善していただきたいです。	もっと、文化・芸術活動への支援をお願いします。	相談・支援体制の充実とときめ細かな情報提供を希望します。	〇〇は当事者の支援などを担う人材を確保するために、他団体、わかちあう会、ふきのどうの会との連携を話し合っている。	現在、ホームページの作成を急いでいます。
00016	・市立ひらかた病院をはじめ、各病院に手話で話せる職員が欲しい。 ・夜間などのタブレットを活用した遠隔手話通訳制度を作って欲しい。 ・立派な基本理念が活かされる取り組みを行って欲しい。(当事者を無視しない計画をやってほしい)	・手話で挨拶はできても会話にならない。もっと手話講習会のレベルアップを。 ・単独で乗車する場合、片道101キロ以上で5割引 ろう者はほとんど単独行動なので101キロ以上の制限があると、実態として割引制度は意味をなさない。 高速道路割引は、レンタカーや知人の車であっても利用できる。 JRや私鉄もバリアフリー化に向けて101キロ以上の制限を撤廃すべき時期になっている。	・保健、医療、関係者と手話で話せない。筆談だと、ろう者が言いたいことを上手に書けず、話が正しく伝わらない。 ・デイサービス、ショートステイなどの利用時も手話通訳者を長押ししてほしい。 ・施設職員のための手話講座を作るべきだ。	・市の出前講座を頼むと、手話通訳者は主催者が用意するとのルール。これは明確なろう者差別です。 ・市職員が手話でなければ、手話のできる職員を手話でなければならない。	手話で話せる職員が必要だ。手話通訳も大切だが、本来は直接相談者と手話で話せる体制を作って欲しい。		
00017	地域の諸団体(障害者施設、高齢者関連団体、一般団体)に〇〇講習を行う。月一回他の福祉施設に通う障害者も来れるように、ラポールで障害者対象の〇〇体験後者を行う、等の取り組みを当団体として行っています。	個別の障害者の状況(過去においてもそのときの現状)を市として(具体的にはケースワーカーさんでしようか?)きちんと把握していただくことが一番もとになると考えます。	現在の特定健康診査の制度になる以前は作業所として(利用者、スタッフ20名位)保健センターで健康診断をやってもらい、結果に基づいて保健師さんが作業所に向いて保健指導してくださり、受診につなげたり、経過を見守って下さったり、いろいろ相談に乗ってくださったりして、大変心強かったです。そのような制度なり体制がまた復活することを望みます。	義務教育を終了すると障害者はケースワーカーから離れ、各事業所が個人個人を見ていく状況になっている。 保護者や本人に”嫌ならやめる”のではなく、続けていく、目標を持って努力していく姿勢がなくなっているように思う。	できることに限りがある「関係機関」が連携しても、必ずしも問題解決につながらないケースをたくさん経験しています。その時核になる人(ケースワーカー?)が必要です。個々が対応していくのは無理です。	地域や個々の資質でバラつきのある民生委員さんが然るべき役割を果たすことが必要だと思います。こんな重要な仕事を担っているのに無償という問題だと思います。	

	図1-1「市民啓発～」施策	図1-2「障害者(児)～」施策	図1-3「安心～」施策	図1-4「自分らしい～」施策	図1-5「身近～」施策	質問A 人材の確保	質問B 支援の届きにくい人
00018	「人権・人命尊重」考えて幅広く市民へ啓発できるよう施策を進めて欲しい。	・コミュニケーションのバリアがなくなるよ障害の種別に合わせての施策を望む ・誰もがわかるツールの活用化	障害のニーズを引き出す力が必要 聞こえない障害は多種多様であり、当事者に合わせたサービスの提供をお願いしたい。	・IT技術も日々進歩しており、障害者に合わせた柔軟な取り組みを望む ・自動文字化、手話化等	ピアカウンセラーの養成等、手話で相談できるスキルを持った相談員がいて、気軽に相談できる場所を増やしてほしい。	取組み→手話講習会等での手話で指導できるろう者の育成 課題→手話は言語であり、指導者育成には長期展望が必要。市の継続的支援、理解が必要。	取組み→ブログ・FB等で情報発信 課題→災害時の支援体制(例:どの避難所に通訳者や文字情報の提供が必要かの把握)
00019							
00020	基本的に高次脳機能障害の認知度が非常に低いと感じている。これを高めるための施策が欲しい。 (市役所の障害に関わっていたいたっている方、一般職員の方の理解はどの程度なのかも知ってみたい)		孤立化を防ぐための居場所づくり (高次脳機能障害の症状は幅広く居場所に困っている人も多い)	この障害に対する企業側、他の従業員の認知度が低いことから離職率が高いと思われる。 理解していた上司が転勤、転籍より居づらくなった例も多いのではないかと。(認知度が低いことによるもので企業側に単に責めている訳ではない)	公的相談支援窓口、相談支援施設、医療機関、就業支援施設、地域、当事者家族会等の連携が必要と考えます。	ボランティアで支援、協力頂く方が増えているが、交通費すら支給できない状況(家族年2000円の会費では、室料、通信費、消耗品費、役員の交通費等の経費負担が限度(社協からの交付金で継続できている現状で先行きに懸念)	ほぼ出来ていない。例えば市の広報による障害の紹介記事の掲載等をお願いしたい。支援施設、就業支援施設、医師との連携が必要。
00021							
00022	〇〇は参加者の高齢化と運動神経細胞減少により、体が思うように動かず、1人で動くと転倒で、頭、手、足、腰の骨折が心配されます。患者様の福祉支援センターに年3回同伴の支援があれば助かります。(ラポール枚方集合場所)	自治会(地域)では戸別世帯台帳を作成して保管しているが、体の不自由な個人への情報共有が住んでいるかは不明。	難病患者の会員としては、保健、医療は重要と思っています。〇〇では会員様にアンケートを時々して、回答をもらっています。パーキンソン病の会員様にも、保健所から連絡をされていますか。私は代表ですが、パーキンソン病ではありません。	スポーツをする体力は会員にはありません。レクリエーション程度の活動支援があると大変助かります。 卓球をされているパーキンソン病の会もあります。	難病の会会員のため、会員は不安を持っていると思われます。しかし、会員の能力では適切に回答できない。	会員の高齢化が進み、基礎体力が低くなり、運動しないと難病が進行するので、次第に出席者が減少する。早く病気を発見し運動と薬を飲めば治るので若い会員を募集している。	難病の病気について理解してもらえる様に講習会などを企画している。
00023	そもそも「合理的配慮」と言う言葉すら普及していないし、浸透していないと感じます。(学校の先生も全員は理解されていないように感じています)市で具体的な事例を紹介する講演会を開催したり、ポスター、SNS等を利用した「行政にしか出来ない、よく目にする」啓発などをしてほしい。事例については、「教育の現場編」「お店編」など具体的に紹介している連載すると、いろいろな事例を知ってもらえるのではないかと思います。	学校の先生の特別支援教育に関する知識や意識が低い方や、そのレベルがバラバラで、教師が変わる度にきちんと引き継ぎされていない。障害当事者やその保護者などの話を聞く機会を大阪府ベアレントメンター等を使って、目の前の生徒への支援を支援について考えてほしいです。 不登校にならないと利用できない等、機関や施設があっても融通が効かなかったり、その存在が知られていなかったりするので、市は広報や保護者への周知をもっと考えてほしいと思います。	実際に最近経験した話として、利用中の方で1事業所より、5月末のお昼ごろにいきなり明日6時1日より事業を閉め休しますとのメール連絡が入り、突然翌日から使用できなくなった。すぐに計画、相談支援を計画している事業所より、市役所にどうにかならないのか、市役所としては何か対応してもらえないかと、問い合わせを入れてもらったが、事業所より閉所の申請を行っていないため、常識に考えてこの対応はありえない。との考えに共感するものの、私から力の指導の対象になる、との見解があった。 親子ともに不安の日々を送り、対応すべく精神的にかなり疲弊すると言う経験をした。事業所に対して、事前通告なくして閉所をすることを、決めることなく、突然時間的余裕もなく、利用者者を無責任に放り出すことなどを、厳しく監視する、もしくは基準が行った際に対応するためのルール作り等をお願いしたい。 他に、 ・日中一時支援の事業所の充実 ・放課後等デイサービスで年代別の特色を活かした事業所があるとありがたい (近隣の他市にはあるが枚方市には中高生向け、もしくは就労準備型のデイのような事業所が少ない) ・福祉専攻科事業所の充実	高校を卒業して児童デイサービスが終了すると、計画相談を受けることもできなくなり、支援が届きません。就労移行支援のことを知ることができない人もたくさんいます。 大学の就職課に行けば理解はありますが、アドバイスをくれるだけで、実際就活を進めていくは難しいです。 当団体で、発達障害に特化した就労移行支援事業所の方に来てもらって講演会をしたり、紹介などをしたことで繋がった方もいますが、ぜひ市でもこのような情報提供や企画をしてほしいです。	枚方市は保護者によるセルフプラン作成を可としているが、児童のうちから生涯に渡って支援が連携していくためには、障害児の計画相談支援が必要。実際に障害相談を看板に掲げていても実施されていない事業所もあり、児童から相談できる人や機関をもっと増やしていかないと、問題が起こってから路頭に迷う本人や家族を減らすことなどできないと思います。		成人の引きこもりの方の中には不登校から引きこもりへ移行するケースやアスペルガーや高機能自閉症の割合も多いと思いますので、学校の協力を得て、不登校や不登校気味の方、アスペルガーや高機能自閉症の方の追跡調査を行うなど、教育と福祉とで連携し情報共有ができるようなシステム作りがあってもいいのではないかと思います。 また、何か送る前に小さい頃からどこかと繋がられるような、気軽に相談窓口の充実が必要だと思います
00024	今、ラ・ポールが使えなくなって、とても困っています。早く空調を直して下さいようにこれは今年に限ったことですが。またラ・ポールのような施設にやはり駐車場は必要です。	それぞれの子供さんのニーズに合った保育、療育、教育を要望します	さまざまに障害に適したサービスを要望します。	就職一致も様々な問題が起きたときの支援の充実をお願いしたいです。	ショートステイ利用など緊急時にも対応できる施設を作っていただきたいです。		
00025	聴力障害者への理解を深める啓発活動 手話条例の制定で、市民に理解を深めるためにイベントを開催したい。	避難所に行っても、簡単な手話で対応できる体制を作りたい。					
00026	「社会生活において視覚障害者とは?」の正しい理解が市民にまだまだされていないため、市民側とどういう風に合理的配慮すべきかがわからないように感じる。また視覚障害者も、どういう合理的配慮を求めるかを伝えられていないこともあると思う。	道路・駅舎・施設内で視覚障害者がどんな不自由さがあるかを当事者に聞いて、バリアフリー化をしてほしい。	日常生活用具の製品項目と限度額や貸与年数の見直しをお願いしたい。	スマートフォン使用の視覚障害者向けの研修会を継続的に開催してほしい。	きめ細やかな情報提供が視覚障害者にはまだまだ不十分だと感じている。		

0	質問C 新型コロナウイルス感染症の影響	その他ご意見	①訪問系サービスa 不満な点	①訪問系サービスb こんなサービス	①訪問系サービスc 補足意見	②日中活動系サービスa 不満な点	②日中活動系サービスb こんなサービス	②日中活動系サービスc 補足意見	③居住系サービスa 不満な点	③居住系サービスb こんなサービス
00009	三年間の空白で、障がいの重度化(活動場所が制限された事により)と会員の親の高齢化などで、活動が難しくなった。	縦の繋がりと横の繋がりをもっと充実させてほしい。現在、重層的な考え方を進められていますが、期待しています。	事業所が多すぎ、選択に困る。利用者本位ではないのではないか。障害者家族で親の支援時間、子の支援時間と決められて食事、支援も別々となりましたが、トータルな考え方はできないのか？	現在中心的なサービスは生活介護事業所が中心で、就労移行Bなどは運営に苦慮している。日中系サービスは事業所も多くて、利用者の取り合いと職員の離職率の高さ。			ショートステイは、事業所が設置、その事業所利用者が優先となり、緊急事態に利用したい方については、遠方の施設しか空いていない状況。24時間利用できる事業所がほしい。		又、グループホームは、医療ケアの必要な障害者は利用し難い。親の同伴での通院で土、日は帰宅する終のすみかではない。	入所施設は、これから特に必要と考えます。8050でなく今、9060時代となっています。親亡き後、グループホームでは生活できません。岸和田の入所施設では、待機者が122人待ちと聞きました。枚方市としてのお考えをお聞かせください。
00010										
00011	当団体は活動できるようになってからは会員さんも集まり、話してほっとすることができています。ラポールひらかたの空調が故障したため、集まりにくい状況が続いています、コロナ自粛中人と話す、交流する機会が奪われるのはかなりストレスだったと思います。	数年前、学校で支援学級に在籍する児童は普段過ごす学級の児童としてカウントされないと聞きました。人として扱われないような気分になったと怒っておられました。私も同じように思いました。昨年の支援級、通級指導。新制度の件でも、大混乱していました。個々が抱えている問題やニーズに対応しやすい制度、配慮があれば、障がいのある子もそうでない子も、過ごしやすくなるのではないのでしょうか？夏休み期間中は自由になる時間が短く、アンケートの回答期間も短かったので、意見があるけど時間がなくて書けない方もいらっしゃるかと思います。アンケート送付の時期や期間は検討していただきたいと思います。				就Bだと送迎のない事業所が多い。		入所できるか不安です。家庭に近い、落ち着ける環境なのか、気になります。		
00012	自粛生活が長期間だったため、その間に体力低下、歩行困難度が悪化した人が多く、活動に参加できなくなる人が近くに居て、集団活動がほとんど出来なくなった。									
00013										
00014		ラポールの予約時、会館が中止になりなったりすると予約のためだけに来館せねばならないのがコロナ禍の折、3〜4ヶ月位の予約が一度に取れると助かります。								
00015		現在の枚方市の福祉サービスの状況には、大変不満を持っております。この一言において、アンケート②の回答をさせていただきます。								
00016			手話で話せる職員が少ない。						手話で話せる職員の情報が無い。	
00017		障害者が社会の一員として生活していくには、今のような人的、金銭的制度等々、無償支援をあたりまえとする環境では無理です。まずは、障害者の金銭感覚ですが、例えば工賃が上がったとしてもその給料の使い方を知らない。一般人はそれがお金が好きなものを買ひ、遊びに行き、創作活動をしませんが、知的、精神の障害があってもその感覚を教えねばならないと思います。障害者やその保護者は支援される立場だけでなく、消費する立場であることを自覚できれば自然に社会に取り込める考えます。	65歳以上になると介護保険サービスの適用を受けるようになるが、障害の特性に応じた専門性の高い対応を、必ずしもケアマネージャーができるわけではない。	大阪府内の聴覚障害者がつくった聴覚障害をもつ高齢者のための施設があると聞きました。当初、聴覚障害の高齢者のみを対象としていましたが、現在は他の障害をもつ高齢者が多いのだとも。高齢になれば多かれ少なかれ障害をもつことになるから同じという安易な考えでなく、様々な障害の特性に対応したサービスを提供できる高齢者施設、訪問系サービス、ケアマネージャーが必要だと思います。						

	質問C 新型コロナウイルス感染症の影響	その他意見	①訪問系サービスa 不満な点	①訪問系サービスb こんなサービス	①訪問系サービスc 補足意見	②日中活動系サービスa 不満な点	②日中活動系サービスb こんなサービス	②日中活動系サービスc 補足意見	③居住系サービスa 不満な点	③居住系サービスb こんなサービス
00018	取組み→市の遠隔手話通訳サービスの支援課題→各支所等のタブレットが活用されていない									
00019					てんかんや発作を起こす可能性のある方への同行援護の充実(医療サービスとの連携など)					
00020	2021年度はほぼ1年間催できなかった。割合として高齢者が多いことから今後の感染の動向を懸念している。	この会は大府府高次脳機能障がい地域支援ネットワーク事業の委託事業である北河内高次脳機能障がい地域支援ネットワーク事業(2018年3月終了)の当事者家族会を継承したものであります。しかし人的、財政的支援がない中、継続に懸念があります。 現在大阪府福祉部及び大阪府障がい者自立相談支援センターを中心に「いかにしてこの障がいの理解を深めるか」の啓発活動に取り組んで頂いていますが、各市との連携がどう行われているか見えません。 今回のアンケート調査に感謝いたします。	ヘルパー不足(特に精神)によるものだと思いますが、ガイドヘルパーのサービスが受けられない。		高次機能障がいのある方で実際にサービスを利用している事例は把握できていないが、身体障がいではなく(もしくは軽度)認知機能の障がいが必要な方が必要性を理解されず、サービスを利用できない状況になってないか懸念する。	職員配置が十分でなく現場であらゆる障がいの方に丁寧な対応をする余裕がない。 B型作業所工賃の改善(交通費もカバーできない現状です?)	単体の施設では解決できないことや負担が大きいことがあるため、現場の職員が対応事例を共有できる環境を作って欲しい 居場所づくり(場所の提供または費用補助)	社会的行動障がい、またはそこまではなくても感情抑制が難しい等の理由で他の利用者とのコミュニケーションがうまくいかず、利用できない、あちこちで断られてしまう事例も聞く	単体の施設では解決できないことや負担が大きいこともあるため、現場の職員が対応事例を共有できる環境を作って欲しい	
00021		・作業所での人材が不足していると感じる(人材の育成) ・株式会社での作業所は沢山あるが、(自由すぎるやり方が多く感じられる)市でやって頂きたい。								
00022	約3年間あまり新型コロナ感染の予防体操対策として自宅待機の情報が出て、外出による運動療法ができなくなり、パーキンソン病特有の運動神経が悪化して、外出ができなくなった。	パーキンソン病はマニュアル通りには治療ににくい。 出来るだけ多くの患者さんの意見が必要。 全国のパーキンソン病友の会は会員5000人集まるため、色々参考になる会員の情報をパソコンや情報紙で調べて、役に立ちそうなら、会員に案内をしています。大阪支部は京都大学のIPS治療を支援している様です。	訪問サービスを受けると看護職員のモニタリングがセットされてポイントが上がり、障害者の負担が多くなる。 内容的には話し相手程度。	訪問看護士さんと1対1の時間となるので満足できる時間です。(言語聴覚士)		定期的に包括センターなどで場所をとらない口の体操とかの教室をして欲しい。				
00023		・福祉の手引きが分かりづらいです。イラストやチャートの活用でもう少し、見やすく読みやすくなるとありがたいです。 ・知的遅れのない発達障害時が、乳幼児健診で発見されない場合がある。進学後に不登校など問題が起きてから発見することが多い。乳幼児健診でも知的遅れのない発達障害を発見できるような対策や、小・中学校などと連携し不登校などの問題が起きる前に早期に発見するシステムを構築してほしい。(保護者から学校の担任へ相談するも、結局不登校となってから発達障害と判明するケースがあった) ・発達障害の診断が下りていなくても、学校がしんどい小・中学生が、少人数で教育が受けられるような居場所を作って欲しい。学校に居場所がない子供たちにも、教育を受ける権利があり、その子供たちへのフォローは十分でないと感じる。(通級指導教室や支援学級の利用だけでは不十分) 現場では民間のフリースクールを利用するのが現実的な対応だと思われるが、フリースクールは月に3～5万円かかり、費用面で利用できない人もいる。フリースクールを公費で賄い、利用者は1割負担にするなどの対策も行って欲しい。 ・新型コロナウイルス感染が5類感染症になり、やっと活動を再開できるようになってきたのに、主な活動場所であるラポール枚方の利用はできないことが残念。また、ラポールの代わりの場所を登録することになったが、このように市で「障害者団体」と把握してくれているにもかかわらず、生涯学習センターや枚方総合芸術センター別館の登録の際、改めて別々に申請し許可をもらうまでに時間を費やしたことが大変でした。一括したシステムにしたらもらえるとありがたいと思いました。			☆生活介護について ・利用時間をもっと長くして欲しい(学生時より帰ってくるのが早い) ☆就労継続支援B型について ・工賃が低すぎて、当事者のモチベーションが上がらない。					
00024										
00025			一人暮らしのろう老人がデイサービスを利用しづらい。						ろう者専用の老人ホームがあったら入所しやすいと思う。	
00026	主に活動するラポールひらかたの人数制限や部屋閉鎖で、予定の行事が中止で、またガイドヘルパーの利用制限で外に出られなくなり、精神的に辛くなったという会員		同行援護事業については、ガイドヘルパーの現状が社会参加を妨げ出てきた。市民に対してガイドヘルパーの養成の啓発をお願いしたい。	視覚障害者のグループホームを考えてもよいのではないかと。	補装具・日常生活用品の品目と貸与年数の見直しを!					

[illegible]